

承應三年八月吉日、加州藤原景平辻村四郎右衛門尉寛永十五年二月吉日、加州藤原景平寛永廿七年七月日など、切る。

カケミツ 景光 加賀の刀工。古刀期に在

つては加州住景光康暦二年又は景光と切るの
があつて、眞景の門人といはれ、同二代は加州住藤原景光又は景光と切り、應永頃。同三代は景光と切り、康正頃。同四代は景光と切り、永正頃とせられる。又新刀期では加州石川郡額谷村住景光と切り、寛文頃と思はれる。

カケモリ 景守 加賀の刀工。景守と切る。永正頃。

カゲヤマゼンベエ 影山善兵衛 加賀藩初
の御大工で、六十俵五人扶持を賜はつた。

カケユマチ 勘解由町 金澤の舊町名。勘
解由殿町とも稱し、淺野川小橋の爪に森川勘
解由なる人が居住して居た故に町名に呼んだ
といふ。明治四年四月此の町名を廢し、岩根
町に屬せしめた。

カゲヨシ 景吉 加賀の刀工。古刀期では
景吉と切り、應永頃。新刀期では加州住景吉
と切り、寛永頃とせられる。

カゲンダイジヨウジヨヒヨウ 加減代乗除
表 一冊。石黒信由の著で、對數表のことだ
ある。これより先本邦對數のことを研究した
ものに安島直圓・會田安明があるが、信由の
は全くそれと趣を異にしてゐる。

カゴ 加護 珠洲郡春日野内の小字。

カゴ 牙湖 ↓キバガタ 木場潟。

カコウ 可幸 ↓ネヅカコウ 根津可幸。

カコキハチロウ 加古喜八郎 祿千石。寛
文二年浪人水越善兵衛と、河地九右衛門伴三

彌の衆道のこと既に喧嘩をなし、水越は富
座に死んだが、加古は岡島市郎兵衛に御預と
なつて切腹を命ぜられた。三彌は岡島内膳に
預けられたが、後に赦免せられた。

カコキヨカド 賀古清康 通稱八郎太夫・

群吾郎。天明五年新知百石を受け、組外で御
近習番に任じ、寛政二年父清安の四百石を襲
ぎ、前田齊敬御抱守・御預地方御用・定番御番
頭・組外御番頭に歴任し、文政元年四月歿し
た。清康字は伯操、號を鏡湖といひ、伊藤殿
の門人で、性懇朴にして飾らず、その學考亭
の宗派を固守した。詩も亦終身廢しなかつた
が、その作る所産品にして、佳なるものはな
かつた。加越能三州古城考の著がある。

カコキヨモト 賀古清元 通稱左太夫。前

田利常に仕へて新知三百石を受け、御大小將
に班し、御右筆となり、萬治二年御馬廻に移
り、寛文四年八十四歳を以て歿。子孫相繼い
で藩に仕へた。

カコキヨヤス 賀古清安 通稱政三郎・八

郎太夫・勝右衛門・市左衛門。養父五兵衛の遺
知百五十石を襲ぎ、寶曆四年表小將横目とし
て百石を加へ、次第に昇進して組頭並に至り、
天明六年百五十石を増し、寛政二年隠居して
幽山と號した。

カコクカンチロン 賀國官地論 ↓カンチ

ロン 官地論。

カコノブトモ 賀古宣知 通稱八太夫。左

太夫清元の子。前田利常に仕へて寛永十九年
百五十石を領し、後四百石に至つた。御右筆
を勤め、萬治二年御馬廻組に班し、元祿四年
歿した。

カゴノミヤ 加子宮 ↓カホウノミヤ 加

賀宮。

カゴノミヤ 加護宮 珠洲郡南方の枝村石
坂にあつた。能登誌に、『石坂の領に加護の谷
と云所ありて、加護宮と弘法大師白山權現
を勧請ありし社あり。古木茂り、神さびたる
宮森なり。』と記する。

カゴノワタシ 籠の渡 白山記に、『大河上

以『大繩二兩岸結付之。構・轆轤・來人渡』之。
名『葛籠渡。』とあり、宗祇の名所方角抄には
『籠の渡は白山の中宮に有之。』とある。又加
賀古跡考にも、『籠の渡は、白山の禪定道に
て、昔は中宮村より尾添村の方へ行くに、白
山川を越ゆる渡し場なり。衣笠内大臣の歌に、
いたづらにやすく過ぎきぬ山伏の籠の渡りも
あればあるなり。されば昔はかく危き籠に乗
りて繩をつたひ越えたりしに、一の橋・手杵
橋などいへる梯二ヶ所を架けられし故に、白
山の禪定する人々も、平地を行く心地してい
と安く渡るも、昇平の國恩といひつべし。』と
書いて居る。籠の渡では往々誤つて命を殞す
者があつたから、元和中前田利常が長橋を架
せしめたとのことは、金子有斐の白山史にも
見える。

カコブンカ 賀古文架 金澤の俳人。もと

藩士であつた。名は清明、小島文器に學び、
柿丸舎六代を襲席し、明治廿七年十月十三日
五十五歳を以て歿した。

カコマタロク 賀古又六 大聖寺藩士。初

名彦之進。元祿九年七月十四日彦之進は、小
者權内がその父又六に無禮なるを怒りて之を
手討にした。後に寶永元年八月廿九日、藩主
前田利直に隨うて能美郡粟生の河原を通つた
時、雷電の爲に落馬死去し、その家は斷絶と

なつた。

カゴヤ 籠屋 ↓トウナイ 藤内。

カザアナ 風穴 石川郡金間領の山麓に、
徑一米許の穴が二ヶ所あつて、常に風を出し
てゐる。邑民は之を風穴と稱する。

カサイ 火災 ↓カジ 火事。

カサイケガハラ 笠池ヶ原 河北郡笠野郷
に屬する部落。邑内に笠野神社がある。源平
盛衰記に笠野とあるのはこの村であらう。加
越能舊跡緒に、『笠池ヶ原領の内に寺屋敷とて
有。古へ蓮如上人居被申候由。』とある。

カサイチマチ 笠市町 金澤の町名。堀川

附近で、世人堀川笠市と呼び、今は笠市町と
いふ。藩政の頃市中及び郡方の女子の縫立て
た菅笠を買入れて諸國に搬出するを業とする
ものが多かつた。所謂加賀笠の取引中心であ
つたのである。

カサグリバナ 笠栗鼻 鹿島郡能登島なる

閩の部落北方なる釜崎と相對し、嶋島入江を
擁する。

カサザキ 加佐崎 江沼郡橋立の西北なる

海角である。加佐岬ともいふ。

カサシ 笠師 鹿島郡笠師保に屬する部落。

能登名跡志に、『三輪氏の十村役あり。櫻田・
藏見といふ百姓あり。大覺寺といふ禪寺あ
り。御收納藏あり。菅忍比古神社立給ふ。』
とある。

カサシガハ 笠師川 鹿島郡笠師領尾細谷

内より流出で、同領の海に入る。流程四軒餘。
カサシシ 笠師新 鹿島郡笠師保に屬す
る部落。

カサシジンジャ 笠師神社 珠洲郡上(部

落名)に鎮座し、明治四十年日、本神社と改め

カケ—カサ